



ひらた・おりざ ●1962年東京都生まれ。1986年国際基督教大学教養学部人文科学科卒業。在学中に劇団青年団を結成し、現在まで劇作家、演出家、作家として活躍。1995年「東京ノート」で第39回岸田國士戯曲賞受賞。2006年モンブラン国際文化賞受賞。2011年フランス国文化省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。桜美林大学、大阪大学、四国学院大学、東京藝術大学等で演劇的手法を用いたコミュニケーション教育に携わり、2021年より現職。



世界が憧れる但馬を 地域と共に創る大学へ

「芸術文化観光」による地域振興と人材育成を地域との協働で推進

「芸術文化観光」という 新たな市場を切り開く

本学は、2021年4月に開学した県立の専門職大学です。キャンパスは、兵庫県北部・但馬エリアの豊岡市にあり、学部は芸術文化・観光学部の1学部で、入学定員は80名です。本学の特徴を一言

なく、行政の立場で地域振興に携わる道や、芸術という強みを持った観光のプロフェッショナルになる道も開けます。そうした利点を生かすため、芸術文化と観光の両方を学びながら自分に適した道を探せるカリキュラムを組んでいます。

1年次は全員が同じ基礎的な科目を履修しますが、2年次は芸術文化と観光のいずれかを「主たる専攻」として選択します。さらに3年次は自分がめざすキャリアに応じた科目を履修し、自身の専門性を磨いていきます。

自らの専門性を生かしたジョブ型での就職を想定しているため、実践力の養成も欠かせません。本学では、1年を4期に分けるクォーター制を採用しており、1期と3期に講義や演習などを配置し、2期と4期は実習や集中講義、海外留学などに当てています。理論と実践を交互に組み合わせること、知識の活用を促します。

実習は地元の協力を得て、キャンプ場や鉄道会社、空港、旅館などの観光関連施設で実施し、2年次以降は1か月程度の長期実習も取り入れる予定です。

9月に開催を予定している豊岡演劇祭は、実習の目玉となるイベントです。アートフェスティバル

で表現するならば、今地域に必要とされる人材ではなく、明日の地域のポテンシャルを引き出す人材を育てる大学だと言えます。

コロナ禍前、日本は東アジアの経済発展を背景としたインバウンド観光で潤っていました。近く、安くて、安全な日本は、海外旅行で初めて行く国として最適だから

には、観光と芸術文化のあらゆる要素が詰まっているため、貴重な経験を積むことができます。2021年度はコロナ禍で中止になりましたが、開催されればアーティストだけでも海外から数百人がこの地に集結します。観光系の学生にとつては、世界中から訪れる観客をもてなす方法や、交通や宿泊の心配、ナイトマーケットでの地域産品の販売などを実地で学ぶ機会になります。芸術文化系の学生も世界中のアーティストと接して、世界水準の芸術文化やアートマネジメントを間近で学べます。

全国から学生が集まり 志願倍率は7・8倍に

本格的な演劇やダンスが学べて、観光業という出口も示されているためか、1期生が受験した2021年度入試の志願倍率は7・8倍になりました。84人の入学者の85%が第一志望者、約半数は関西圏以外の出身者です。

人口約8万人の街に大学ができたことで、人口減少の解消も期待されています。これまでは18歳の時点で多くの若者が市外に流出していました。今後は毎年80人近い若者の流入が見込めます。地域からはアルバイト学生が増えた

荒波に挑むトップ 私の改革論

No.48

芸術文化観光専門職大学
学長

平田オリザ

芸術文化観光専門職大学 ●2021年4月、兵庫県豊岡市に開学した公立専門職大学 ▶芸術文化・観光の1学部1学科。入学定員80名 ▶めざす大学像として「芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学」を掲げる

取材・文/仲谷宏 撮影/楠本夏彦

ため、大きな経済波及効果が見込めます。芸術文化と観光が結びつけば、そこに「芸術文化観光」という新たなビジネスチャンスを生み出すことが可能なのです。

本学が位置する豊岡市でも従来型の観光ビジネスからの転換が課題です。「城崎温泉でカニを食べる1泊2食2万円」という定番コースでの観光客誘致だけでは、もはや限界だからです。幸い、城崎には文人を受け入れてきた歴史があり、芸術文化を育む下地があります。芸術文化観光による地域振興には、まさにうってつけの地域なのです。

「豊岡を中心とする但馬エリアを世界が憧れる場所になりたい」。このビジョン実現には、芸術文化と観光の両方の知見を持った専門人材の養成が欠かせません。そこで、地域で芸術文化観光の取り組みを推進しつつ、その実践の中で必要となる人材も育成する大学の設立に至ったわけです。

出口を見据えた カリキュラムを編成

芸術文化と観光の両方を学ぶことは、学生にとって職業選択の幅を広げるというメリットもありま。プロの芸術家をめざすだけで

め、「街の風景が変わった」と言われることがあります。また、本学の学生の4割が豊岡に残れば人口減少が解消し、2割でもプラスの効果があるとの試算も耳にします。私は地域の人たちに、大学は全国から学生を集めてくるが、地域に残るかどうかは地域の課題だと話しており、実習で学生が訪れた際には、地域がめざす将来像を学生にぜひ語ってほしいとお願ひしています。

互いの人格を認め合う フラットな関係を重視

大学運営では、フラットな関係を重視しています。芸術や観光はチームで仕事をやるものであり、チーム内で互いの人格を尊重し合うのは海外では当たり前のことです。そのため、学生や教職員には全て「さん」付けで名前を呼び合うように要請しています。学生に対して「あの子」といった呼び方はせず、子ども扱いしないことも意識

しています。

2022年度になり、1期生は2年次へと進級しました。彼らには、正しく迷う経験をさせたいと考えています。人生は自分の思うようにいかないもの。複線的な視点を持ち、しなやかに生きてほしいと願っています。

私は観光には、自分の国を知ってもらうことで安全保障を強固なものにする力があると信じています。また、コロナ禍からの社会・経済の復興において芸術や観光が果たす役割は大きいと考えています。今、学んでいることは、世界平和や社会の発展につながるもの、強い思いを持ち、「この道」を究める学生を育てていきます。

注目の経営指標

学生の複線的なキャリア観



1期生が2年目を迎えるにあたって、学長から教員に「きちんと指導するというよりは、正しく迷わせる」指導を依頼。自分の将来を具体的に考え始める学生に、単線思考ではなく複線的に物事を捉えるよう伝えて、人生の矛盾や不条理を受け入れ、しなやかに生きる人へと育成したい考えた。